

光、風、緑に包まれるスローリビング

リラックスできるわが家の中にいながらにして、
 光や風、緑に包まれ、季節の移ろいを身近に感じられる。
 それが、バルコニーのもつ魅力のひとつではないでしょうか。
 周りの景色や自然をわが家の中へと取り入れたり、
 アウトドア気分を味わえる
 リビング・ダイニングとして過ごしたり、
 近年、内と外とをつなぐ空間であるバルコニーは、
 マンションライフを楽しむスペースへと進化しています。
 グランドメゾンも多様なバルコニーを提案していますが、
 その根底にあるのは、
 積水ハウスが「居心地の良さ」を科学して導き出した
 新しい中間領域「スローリビング」の設計思想です。
 今号は、マンションにおけるバルコニーについて、
 その機能と役割、そして最新のスタイルを考察してみました。

豊かな緑をたたえる千里中央公園の眺望が目の前に広がる「グランドメゾン千里中央東丘」。ウッドデッキを敷いてリビングとフラットにつなげたバルコニーは、屋内のようにくつろげる安心感がありながらも、自然の恵みに包まれる癒しの空間となっています。

「わが家」の延長線上で
自然を感じられる空間

自宅のバルコニーで朝食を食べたり、気軽にアウトドア気分を満喫したり、今、バルコニーの使い方は実に多様化していますね。そもそも、マンションにおけるバルコニーには、どのような機能や役割があるのでしょうか。

「もともとはエアコンの室外機置き場、そして洗濯物や布団を太陽の下で干すという目的でつくられたスペースだと思います」（木下）

「お日さまの匂いのする洗濯物で、気持ちいいですからね。洗濯乾燥機や浴室乾燥機を使う方も増えてはいますが、やはり外で干したいという声も耳にします」（塩尻）

「また、避難経路としての役割もあるんですよ。マンションでは基本的に二方向の避難経路を確保する必要があり、玄関とバルコニーにすることが多いんです」（辻岡）



アウトドアリビングとしての利用にふさわしい奥行き3mのバルコニー。開放感とプライバシー、日なたと日陰のバランスを考えた設計となっており、青い空と緑の植栽を眺めながらゆっくりくつろげます。（アイランドシティ 照葉テラス フォレストカーサ/福岡県）

「それぞれの住戸のバルコニーには、避難ハッチが設置されているか、隣の家の仕切り板を蹴破って避難ハッチのあるところまで行けるようになっていきますね」（塩尻）

「いざというときには簡単に破れる仕切り板ですが、平常時にはお隣の家と仕切つてプライバシーを守る壁でもある。視線や音が気になりにくいつくりしたいですね」（木下）

「ええ。近年は避難経路としての役割を十分に満たしながら独立性を損なわないバルコニーもつくられるようになりました。ほかにもガーデニングのプランターを置けるようにしたり、スロップシンクを設けたり、その時代その時代のがなえたい暮らし」にふさわしいバルコニーのあり方を追求してきたという歴史があります」（辻岡）

「だから、時代とともに変わっているんですよ。昔は奥行き1m程度までのバルコニーが主流でしたが、今では1.5m以上のものが一般的になっていきます。さらに広さを特徴として謳うには奥行き2



室見川の河口付近に位置し、視界を遮るものがないGM百道浜Villaのバルコニー。手すりの面材には強化ガラスを採用し、リビングのソファからもリバービューを楽しめるようになっています。（GM百道浜Villa/福岡県）

「3mは欲しいところ」（木下）

「それだけの奥行きがあれば、テーブルや椅子を置いて家族でくつろぐときもゆとりがありますね」（塩尻）

「とくに最近ではアウトドアリビングとして内と外の間領域ならではの心地良さを楽しむスタイルも浸透してきているので、広さとともに室内とのつながりや床の仕上げなどにもこだわって設計されることが多くなりました」（辻岡）

「不思議なもので、ご夫婦をモデルルームにご案内していると、ご主人の方がバルコニーで星を眺めながらお酒を飲みたい」といった夢のあるお話をされることが多いですよ」（塩尻）

「奥様は何を望んでいらっしゃるのでしょうか？」（辻岡）

「洗濯物やお布団が干しやすいかどうか、スロップシンクで上履きを洗えるのかなど、現実的なことを気にされる方が多いですね」（塩尻）

「男性の方が夢見がち……自分も含めて、そう



梅田エリアアヒと駅というアクセスの良さを誇るGM松ヶ枝町では、都市邸宅ならではのスロージョイントを求め、大開口L型サッシと奥行きあるバルコニーで中間領域を創り出しています。（GM松ヶ枝町/大阪府）

先人たちの知恵が生み出した、縁側や軒下といった中間領域を
現代の住宅にふさわしいかたちで翻訳したのが「スロージョイント」です。（木下）

心地良さを科学した
「スロージョイント」

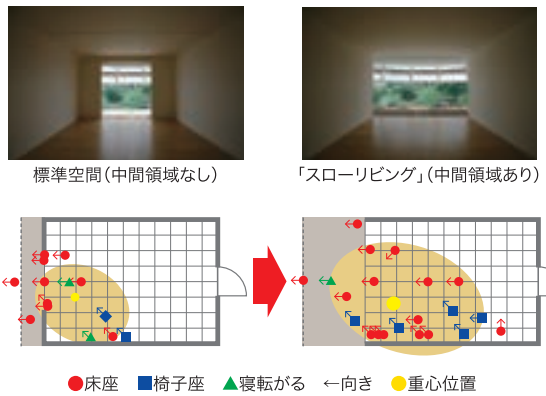
「居心地の良いバルコニーを計画するために、グランドメゾン（以下、GM）ではどのようなことを大切にされているのでしょうか。」

「GMだけでなく、戸建て住宅も含めて、積水ハウスには「スロージョイント」という考え方があります」（辻岡）

「積水ハウスが人の心理や行動を科学的に研究して独自に導き出した、居心地の良い空間のことで、2011年にグッドデザイン賞も受けているんですよ」（塩尻）

「人それぞれ異なる居心地の良さについて、感覚的には科学的にとらえようと試みたのが始まりで、まずは当社の総合住宅研究所に実寸大の実験空間を建設しました。そこで、どんな空間のどこで過（すぎ）すのが心地良いか、窓の大きさや

居心地の良い場所の分布比較実験



天井・床の高さを変えると心地良さはどう変化するかなど、実証実験を重ねたんです」（辻岡）

「その実験の成果として導き出されたのが、屋外と室内を結びつける中間領域の有効性です」（木下）

「従来の標準的な空間では居心地の良い場所が窓周辺に集中していました。ところが、開放的な窓と軒下空間、内と外をゆるやかにつなぐ中間領域を設けた空間では、居心地の良い場所が広がることになったのです（左上、居心地の良い場所の分布比較実験参照）」（辻岡）

「それって、昔ながらの縁側の心地良さに似ていますね。自然とのつながりを感じながらゆったりと流れる時間を味わえる空間。それは、慌ただしく過（すぎ）す現代人にこそ必要なもののような気がします」（塩尻）

「そうなんです。先人たちが住まい方の知恵として生み出した縁側のような中間領域を現代



リビングとバルコニーをつなぐ窓に、全面開放できる折れ戸サッシを採用したタイプ。戸を両側にたたむことで開放感のある広がりを生み、スロージョイントの心地良さがリビングの奥まで広がります。（GM百道浜Villa/福岡県）

光や風、緑といった
外の自然を内に取り込む

GMのバルコニーをつくる際には、内と外の連続性をどのようにして生み出しているのでしょうか。

「周りの環境によって異なります。たとえば周辺に豊かな自然がある立地の場合は、その光や風、緑を室内にもふんだんに取り入れられるように



奥行き約4mのフラットデッキの目の前に奥行き3mの植栽帯を配し、住戸内との連続性・緑豊かな眺め・開放感とプライバシーの両立を実現したプラン。（GM鳥飼テラス/福岡県）

「男性の方が夢見がち……自分も含めて、そうかもしれない。それでも夢で終わらず、住まわれた方が理想のバルコニーライフを実現されている様子を見ると、私まで嬉しくなっています」（木下）

「マンションのバルコニーは、住まう方が専用のに使える唯の屋外空間。キャンプやピクニックにわざわざ出掛けなくても家の中で自然を感じられるのは、忙しい現代人にとって、とても嬉しいことじゃないでしょうか」（塩尻）

「森林浴にストレス解消効果があるように、木々の緑や新鮮な空気、太陽の光に触れることは癒やしにつながるんですよ。バルコニーは、豊かで快適なマンションライフに欠かせないスペースとなっています」（辻岡）



しています」（辻岡）

「ワイド開口で目の前に広がる眺望や周辺環境を存分に味わえるバルコニーは、深呼吸したくなる気持ち良さがありますね」（塩尻）

「その気持ち良さをバルコニーだけでなく、リビングのソファにいても感じられるようにするのが、「スロージョイント」のポイントのひとつ」（木下）

「窓を中央から大きく開け放つことができるセンターオープンサッシにして、視界を遮るものをなくすと、自然と一体になったかのような開放感を得られます」（辻岡）

「フラットサッシも内と外との一体感を高める効果があるので、窓際はもちろん、どこにいても心地良く過ごせますね」（塩尻）

「室内外がフラットにつながっていると、行き来するときの心理的なハードルも下がるので、室内でくつろいでいる状態の延長で、気軽に外に



副都心の中に森のような植栽を描き出したGM西新フォレスト。1階住戸には、奥行き5mのテラスと家庭菜園スペースを設け、戸建て住宅のような空間を創出しています。（GM西新フォレスト/福岡県）

talking member

大阪マンション事業部（左から順に）

●辻岡 辻岡 設計室/一級建築士/宅地建物取引士/以前は旅に出て各地の建物を見るのが好きでしたが、今は娘が中心の生活。休日には家族で公園に行ったり、娘のための買い物をして過ごしています。

●木下 木下 分譲営業課/宅地建物取引士/私も息子中心の生活です。まだ5カ月で慣れないことも多いですが、休日には一緒にお風呂に入ったりして、育児を楽しんでいます。大きくなったからキャラバンも作ってあげたいですね。

●塩尻 塩尻 分譲営業課/一人で家にいるとダラダラと過ごしてしまっ、後悔すると思うんです。だから先輩とフットサルやゴルフを楽しんだり、同期で集まったり、休日でも会社の人と過ごしていることが多いですね。



バルコニーから見える景色も、暮らしを豊かにする要素なんですよね。暮らしはじめてから、ますます好きになってもらえたら嬉しいです。(塩尻)

出られます(木下)

「バルコニーに出たい、そこにくつろぎたい。そう思ってもらえるように、素材選びにも細やかな配慮をしているんですよ。木目調のノンスリップシートなど、ナチュラル感がありながらも、雨の日でも滑らない安全性や屋外でも使える耐久性を兼ね備えた床材を提案することもあります(辻岡)」

「手すりの素材選びも重要ですよ。強化ガラスや格子、コンクリートがありますが、眺望の確保と安全性、プライバシー、防犯など、さまざまな要素への配慮が必要になります(木下)」



バルコニーにガラスを入れたスクリーンを設け、アウトドアリビングのように使える半屋内空間を生み出しました。住まう人の工夫次第でさまざまな使い方ができます。(六甲アイランドCITY W7Residence/兵庫県)

か、大きな公園に面していて緑が一面に広がっているといった周辺環境に恵まれている場合は、リゾートホテルのバルコニーの演出なども参考にしながら、非日常の心地良さを日常の中に取り入れる工夫をしています(辻岡)

内の心地良さを外へと広げていく

見晴らしの良いマンションの場合は外の自然を



バルコニー全体の奥行きを深くするのが難しい場合も、一部の奥行きを深くすることで、テーブルと椅子を置いてアウトドアダイニングとして使える空間を生み出しました。(GM柏江/東京都)

いかに室内に取り入れるかという点がポイントになりましたが、建物が隣接していることが多く都市型マンションの場合は、どのように計画されているのでしょうか。

「都市部に建てられるマンションの場合は、眺望や開放性を確保しにくいことが多いですね。だからといって、自然に親しむ暮らしをあきらめてしまふのは残念です。やはり光や風を感じる心地良さを大切にしたいですし、そのための工夫に注力します(木下)」

「でも、都会の真ん中で開放的なバルコニーをつくっても人が気になりますし、実際に広々としたスペースを確保すること自体が難しいですね(塩尻)」



都市邸宅におけるスローリビングをかたちにしたGM松ヶ枝町で、リビングのソファに座ったときに見える景色。LDKとバルコニーが視界に入り、内と外との一体感を楽しむことができます。(GM松ヶ枝町/大阪府)



域にしています。木調の天井材・床材を使用しているダウンライトを設置するなど、内の心地良さを外へと広げていく発想で計画しました(辻岡)

「空間を有効に使えるように工夫を凝らした一例ですね。バルコニーを深く室内側に入り込ませているので、夏の強い日差しは遮りながらも室内にはやさしい光が届いて心地良いリビングになっています(木下)」



バルコニーへのアクセスは、リビングだけでなく寝室からも可能に。朝、目覚めてすぐにバルコニーで太陽の光を浴びたり、就寝前に星を見ながら一杯飲んだり、中間領域の楽しみ方が広がります。(GM松ヶ枝町/大阪府)

開放感や眺望を確保しながら、プライバシーを守る。それは、マンションのバルコニーだからこそ実現できることなんです。(辻岡)

したね(木下)

「半屋内となっているので、季節や天候に左右されずにバルコニーライフを楽しめるのが、魅力となっていますね(塩尻)」

「あのマンションではバルコニースクリーンのプラン、奥行き3mのバルコニーのプラン、角住戸で二面バルコニーのプランなど、部屋の間取りだけでなくバルコニーにも個性を出しました。ライフスタイルに合わせてバルコニースタイルも選べる。そんな遊び心のある新鮮な提案が素敵だと評価してくださいましたお客様もいらっしゃいました(辻岡)」

住まう人一人ひとりが自分らしく過ごせる場

バルコニーと三言いでいっても、そのスタイルは実に多様なのですね。



「テラス+LDK」という発想で、外の環境をやさしく室内に取り込むGM上町台テラス。都心へのアクセスが快適な立地でありながら、四季の移ろいを身近に感じられます。(GM上町台テラス/大阪府)

良いところをつくり、スローリビング”を実現できるか。その空間をつくり出すときに、中間領域であるバルコニーがとても重要な役割を果たしているんですね。究極的には、住まう人一人ひとりのライフスタイルに合わせたバルコニー

スタイルがあるのだと思います(辻岡)

「照明や防水コンセント、スロップシंक、タープフックなどを設置するかどうかは、バルコニーでの過ごし方をイメージしなければ決められないですよ。近年はガーデンファニチャーも充実している、さまざまな過ごし方ができるようになっているので、考える要素が増えているように思います(塩尻)」

「バルコニーでくつろぐ人にエアコン室外機の熱風があたらないように室外機の向きにも配慮したり、幹線道路沿いの住戸ではバルコニーの天井に吸音パネルを設置したり、細かい配慮も行なっていますよ(辻岡)」



ルーフバルコニーにウッドデッキを敷き、リビングとの連続性を高め、広がり感を演出。格式高いお屋敷町に位置するので周りに高い建物がなく、眺望が開けています。(GM白壁櫻明荘/愛知県)

「私たちは、住まいにどうしても高い理想を求めてしまいがち……。光や風、緑は感じたいけれど、雨には濡れたくないし他人からは見られたくない。それに広いバルコニーにも憧れるけれど、リビングだって広い方がいい(木下)」

「バルコニーの奥行きを1m減らしてリビングを広くするのが良いのか、それとも外でくつろぐ時間を大切にするのか、難しいところですね。すべてをかなえるのは簡単なことではありませんが、そこに住まう人の理想に近い空間をつくり出せるようにと、心掛けています(辻岡)」

「また、バルコニーは専用使用権が認められていますが、あくまでも「共用部」。禁止事項もありますが、音や臭いの問題などマナーを守っているだけでも大切ですよ(木下)」

「もしいろいろな制約を抜きにした夢として考えたら、どんなバルコニーが提案できるでしょうか(塩尻)」



タープフックを設置したバルコニー。日差しをほどよく遮りながらも風の通り道を確保できるので、外で過ごすひとときが一層快適になります。(GM大濠テラス/福岡県)



「趣味を楽しめる、離れとか、ルーフバルコニーに露天風呂があったら、気持ちいいでしょうね(木下)」

「共用部ではなく専有部としてのバルコニーがつかれるようになったら、挑戦してみたいことはたくさんあります。戸建て住宅の庭では意外と難しい、プライバシーを守りながら眺望を確保することというのが、マンションでは実現しやすいですし、さまざまなプラン提案の可能性は大きいと思います(辻岡)」

「確かに、戸建て住宅にはない魅力のある空間ですね。それに庭の手入れをするのは面倒という方もいらっしゃるけれど、マンションなら、植栽は管理会社がきれいにしてくれるから、バルコニーからいつもきれいな緑を眺められる(塩尻)」

*

ライフスタイルが多様化していく中で、バルコニーのかたちも、そこで過ごす時間のあり方もさまざまに変化しています。そういった中でゆとりあるバルコニーがとくに増えているのは、やはり人間には、自然の光や風を五感で感じることができる場所が必要だからなのでしょう。

さあ、ちょっとgm誌から目を上げて、バルコニーで深呼吸してみてくださいませんか？